

## 平成27年度 奈良県スポーツ推進審議会定例会 議事録

- 1 開催日時 平成28年3月25日(金) 10:00～12:00
- 2 開催場所 奈良県文化会館 多目的室(地下1階)
- 3 出席委員 佐久間会長、井上委員、阪口委員、田中委員、辻本委員、  
並河委員、根木委員、松下委員、松永委員、森本委員  
(会長除き50音順)
- 4 欠席委員 朝原委員、泉本委員、角谷委員、菅井委員、中西委員、  
(50音順)
- 5 開会

### [司会]

大変お待たせいたしました。ただ今から、平成27年度奈良県スポーツ推進審議会定例会を開催いたします。本会議の進行は事務局を担当しております、奈良県スポーツ振興課の上村がつとめさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に際しまして、奈良県くらし創造部長の中より、一言ご挨拶申し上げます。

### [中くらし創造部長]

奈良県くらし創造部長、中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。平成27年度奈良県スポーツ推進審議会定例会開催に際しまして一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様方には、年度末の何かとお忙しい中にも関わりませず、本日の奈良県スポーツ推進審議会にご出席賜りましたこと、心からお礼申し上げます。また、平素より本県スポーツの振興にご理解、ご協力をいただいておりますことに、厚く感謝申し上げます。

さて、本県では、皆様方のお力添えを得て策定いたしました奈良県スポーツ推進計画に基づきまして、スポーツの振興はもとより、様々なスポーツを通じた地域振興、地域の活性化に鋭意取り組んでいるところです。

本年は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催されます。また、来る2019年にはラグビーワールドカップが、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今、国民、県民の間ではスポーツに対する関心が高まり、スポーツに寄せる期待が日に日に大きくなっているものと感じているところです。

本県としましても、こうした動きを追い風にして、さらなるスポーツの振興を図って参りたいと考えているところです。

また、後ほど説明をさせていただきますが、本県ではアスリートの育成をめざし、26年度から取り組んで参りましたトレーニングセンター構想の検討につきまして

は、原点に立ち返りまして、スポーツ医科学に基づいた研究、開発を押し進め、幼児期からの年齢、発達段階に応じた効果的なトレーニング手法や理論を「奈良メソッド」として確立することをめざすことといたしました。そういう趣旨でございますので、これまでの資料では「トレーニングセンター」としてきました名称も「奈良県スポーツアカデミー」とし、この「奈良メソッド」を広く応用して、県民の体力向上や健康増進、アスリートの育成などに繋げていきたいと考えているところで

す。  
本日は、平成27年度の事業報告および平成28年度の主な取り組みについてご説明させていただき、その後、委員の皆様方から長期的な展望に立ったご提言、また、今後充実した事業を計画、実施するうえでの先見的なご提言等、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。2時間という短い時間ではありますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

[司会]

会議資料、次第等の説明。

委員の紹介および議事録等の公開についての説明。

それでは、これより議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、本審議会会長である佐久間会長にお願いしたいと思います。

それでは佐久間会長よろしく申し上げます。

[佐久間会長]

それでは議事進行を務めさせていただきます。

今回は27年度の到達点の確認、見極めと28年度に向けた事業内容について、それぞれご専門の先生方がおられますのでご意見を賜りたいと思っております。

私は、現在立命館大学でスポーツ振興担当の学生部長をしております、スポーツの持つ力を訴えながら活動しているところです。今年度は久しぶりにアメリカンフットボール部が学生日本一になりまして、正月、東京ドームでの日本選手権には、全都道府県の卒業生たちが集まりました。あのような帰属意識というのはスポーツ独自のもので、奈良県出身の選手が活躍すると奈良県人としての誇りを持って、またいろいろなスポーツの発展に貢献してくれることに繋がるという、あらためて帰属意識を実感したところでございます。今年は特にオリンピックパラリンピックがありますので、本学からもオリンピック選手50人という目標を掲げていますが、それをどのようにして達成するか、指導者発掘や資金集めも含めて取り組んでいます。また、大学には様々な学科がございますので、国際関係学科とボランティア養成について連携する等、いろいろな部署と協力して進めています。独自のアカデミーコース等もありますので、いろいろな方面でスポーツの推進振興に協力していきたいと思っています。

本日は、是非、実りある委員会にしたいと思っておりますので、委員の皆様方には、たくさんのご意見をいただきますようお願いいたします。

それでは、お手元に配付しています、議事1、平成27年度事業の実施状況について、事務局より説明をしていただきます。

〔事務局〕

資料に基づき説明

## 6 議事

〔佐久間会長〕

27年度の主要事業につきましてご説明いただきました。ご不明な点、ご質問等はございませんでしょうか。

〔根木委員〕

アスリートネットワークの根木です。よろしくお願いします。

2020年に向けて奈良県は、パラリンピックタレント発掘にいち早く取り組まれたと思います。陸上、水泳で行われましたが、内容について、どういう方が参加されたのか等、初めて取り組まれたことで、全国的にもそれほど行っていない事業なので、もう少し詳しくお聞かせいただけたらと思います。

〔村上課長〕

事業を始めるに当たって、地元の競技団体にご相談させていただいたのですが、実際にしたことがないのでどうすれば良いかわからないという状況でございました。地元ではなかなか難しいということで全国組織にご相談させていただき、陸上も水泳も受けていただき、まず発掘イベントをさせていただきました。

仰っていただきましたように、今までにない事業ですので、どのようにして多くの人に来ていただくのか、県内の子どもたちだけに焦点を絞っては集まらないということもございまして、例えば大阪のイベントに出かけてピラをまかせていただいたりしまして、特に陸上につきましては、それをすることによって他府県からも多くの方にご参加いただきイベントを開催しました。

そして、その参加者の中から、次の育成へ進んでいただける方を絞りまして、練習会を2回実施いたしました。その中には、イベントには来ていないけれど、自分もやってみたいという、身体に障害をもちながら特別支援学校ではなく、県立高校に通い野球部にはいっておられる子どもさんも参加されました。野球ではなかなか試合に出るのは難しいけれど一生懸命練習しており、投力が鍛えられているので、やり投げを試してみたらどうかというアプローチをさせていただきました。すると、なかなかセンスもあり、将来を期待できるような選手でしたので、これからも練習

会に参加してもらうように進めています。

水泳につきましては、選手としてして参加いただいた方は少数でしたが、育成に向けてどのように指導すれば良いかということに関心をお持ちの、指導者の方が多く参加されました。水泳もイベントと練習会をさせていただきました。

来年度以後は、発掘もですが、選手育成をどうするか、また、県内で核になる組織や団体をどう育てるかが2020年へ向けての課題だと考えています。

[根木委員]

パラリンピック委員会という全国組織でやっている発掘事業でも参加数は芳しくなく、今年初めてでしたので同様に苦労しましたが、直近に東京都が行った発掘イベントでは盛況でした。

まずは、開催したことによってそのことが知られて、第2回第3回と課題も出てきながら成熟していくもので、資料の参加者数を見ると、労力をかけたわりにこの数字はどうかと思うってしまうかもしれないけれど、やったことがまず素晴らしいです。そもそもなかったものをされたのですから、ご苦労も思っていたとおりましたかと思いますが、これからも続けていただきたいと思います。

[松下委員]

アシックスの松下でございます。

資料4の3章の3、あこがれ感動を生むスポーツのところで、国体の順位目標なんですけど、あまりにも現実的すぎてモチベーションが上がりにくいのではと思います。せめて、種目を選んで、この種目ではトップになるというような目標を明確にして、モチベーションを上げるようにしてはどうかと思います。

それから、非常に素晴らしいと思いながら合宿招致のリーフレットを見せていただいているんですが、現実に来日されたときの現状と余りにも違いがないようにしてください。また、メディカルとケアに関連する内容を加えていただければと思います。ケア用のプールやマッサージ、医療機関に関するインフォメーションも入れていただければと思います。

[佐久間会長]

根木委員に精神障がいの方のパラリンピック出場についてお伺いしたいのですが。

[根木委員]

身体障がいの方が参加されて、精神障害、聴覚障がいの方はパラリンピックではなく、他の大会があります。

[佐久間会長]

精神障がいの方のスポーツについてはいかがでしょうか。

[村上課長]

陸上は知的障がいの方も対象にさせていただきました。水泳は、指導できるスタッフが充分準備できず身体障がいの方のみにさせていただきました。

[佐久間会長]

先ほど国体の総合成績についてご意見ございましたが、個々に取り上げれば結構強い種目ありますよね。ホッケーなど、南都銀行もありますし、森本委員いかがでしょうか。

[森本委員]

ホッケーの森本です。実際に奈良へはホッケーをするために各県から来てくれる選手が多いです。強化も日本のトップの中心にいる指導者がいて、自然にそこに集まって来てさらに世界で活躍していく選手が多く出るという、強化システムが確立していると言えるのではないかと思います。

勉強不足で申し訳ないのですが、スポーツアカデミーを進めて行くに当たって、競技については、手広くしていくのかピックアップしていくのかというところが明確になればいいなと思っています。

私は、現在子育て中で、子どもにもスポーツをさせたいと思っていて、町中に小さいスポーツクラブはたくさんあるのですが、「この指導員さんは大丈夫なのかな」と感じたり、閉鎖的な雰囲気不安を持ってすることがあります。その中で、スポーツアカデミーが認定している教室であるとか、子どもたちがスポーツアカデミーを通してトップアスリートとの交流ができるなどの生涯スポーツの観点と並行して、競技者としては、たった一人でもトップアスリートになればいいのという考えもあるので、そのあたりの棲み分けがスポーツアカデミーの中でうまくいけばいいなと感じています。

昨年度の国立スポーツ科学センター連携事業は、テニスと陸上競技で行われましたが、これを、他の競技も一人二人ずつでもかまわないので多くの人に体験させ、それを各競技に持って帰ってもらおうと、子供たちの情報発信力は凄いのので、例えば参加した選手が誇らしく思えて保護者や周囲の方も共感してサポートすることによりトップアスリートに成長する、またそこにあこがれてトップをめざす子どもたちも出てくると思います。競技を越えた横のつながりや同世代のつながりが大きな力になることもあるので、そのようなスポーツアカデミーであればいいなと思っています。

ホッケーでは世界で活躍する選手も指導者も出ていますし、柔道やいろいろな競技もあります。また、今は出ていない競技からもトップアスリートが育ってくれればいいなと思っています。

[中部長]

スポーツアカデミーをどういう競技種目にするのかということでございますが、資料6の5でも記載しております、26年度の構想検討委員会で重点強化競技としてテニス、陸上、水泳の3競技をご提言いただき、27年度はこれらの実現化の取り組みをさせていただいたところで、先ほどご説明させていただきました。

その中で、アカデミーは当然理念だけではなく実践、検証していきトレーニング手法や理論を考えていこうというのがスポーツアカデミーの目的でございますので、これを、医科学に基づいた研究、検証をしながら実践する場としていくときに、全ての競技種目という訳には参りませんので、ご提言いただいたテニス、陸上、水泳の中で実践、検証していこうというのが、スポーツアカデミーのスタートです。理論が固まっていて、他の競技にも使えるのではないかとということになれば、他の種目の指導者の方にお示ししながら実践していただくというようなイメージでスポーツアカデミーを考えていきたいということで、後ほどの28年度の取り組みでもご説明させていただきます。

スポーツアカデミーではアカデミックな部分もあれば実践検証していくためには少なくともハード面の整備も当然必要になりますので、28年度でしっかり検討して一定の基本構想をまとめていきたいというのが、現時点でのスポーツアカデミーに関する取り組みであるということをご理解いただきたいと思います。

[佐久間会長]

水泳、陸上、テニスはいずれも個人競技ですので検証しやすいという考え方はとても良いと思いますが、いろんな意味で盛り上がるチームスポーツというのは是非必要だなと思いますので、今後ご検討いただきたいと思います。

松下委員からご提案がありました、メディカル面、特にスポーツ傷害に関してのお考えを田中委員からお願いできますでしょうか。

[田中委員]

奈良医大としては、奈良マラソンをはじめとほとんど県のイベントでサポートさせていただいていますが、アスリートが故障、怪我をしたときのケア、そして医科学を競技力向上にどのようにサポートしていくかということの具体的な案はまだですが、奈良医大としては50名ほどのスポーツに関連するドクター、理学療法士がいますので、どのような視点で進めていくのか方針を示していただければ、連携できると考えています。

また、年間通して決まっている事業が多いので、早めに連絡いただければ対応可能です。いろいろな事情で決まるのが間際になるのかもしれないが、決まっている事業は前もって教えていただければありがたいです。

[佐久間会長]

他に委員の方いかがでしょうか。

[並河委員]

天理市長の並河でございます。今日は市長会の代表として出席させていただきました。

奈良県では県と市町村がまちづくりの面でしっかり連携いこうと、荒井知事の力強いリーダーシップでやっていただいておりますが、スポーツの推進という面でも、より一層連携を深めさせていただけたらという視点で4点ほど申し上げたいと思います。

まず、1点目ですが、先ほどから柔道やホッケーなど競技名が出ていますが、それらは天理スポーツの代表格でして、もっともっと地域に入っていきますと奈良県にゆかり深い方がご活躍いただいていることが多くあります。

資料6の2で相撲については桜井市と葛城市の連携が記載されておりますが、例えばラグビーではPRパンフレットにも日本代表の立川選手が大きく扱われていますが、彼はワールドカップが終わったその週末に天理に来てラグビークリニックをいただいております。また柔道ではオリンピックに出られた穴井現天理大学柔道部監督や世界選手権優勝の大野将平選手など、そうそうたる方々が地元の子どもたちを教えていただいている様なことは、天理だけではなく他の市町村でもきっとされていることだと思います。そのようなことは限られた参加者だけが知っているのではなく、県民全体で凄いなという認識を深めるためにも是非県とも一緒に取り組んでいきたいし、参加者も広く集めていきたいと思います。それが、トップアスリートに触れるということだけではなく誘致の部分にもつながってくると思います。

資料にはハード面については記載されていますが、海外の方に対して、土地柄など共感いただけるストーリーを発信していくことが大事だと思います。例えば柔道でいえば、天理はフランス柔道の発祥から深い関わりがあるのですが、歴史的な部分に加え今に生きている人脈も非常に強いです。誘致活動を進めるに当たって、それぞれの国で活躍されている種目の主立った方と関係をもっておられる県内の方のパイプがあるというのは一番効いてくるのではないかと思います。

そのようなことを有効活用して、なぜそこでというについても、地元でもそのような方が自分の練習だけではなく、地域貢献やまちの人々とこのように取り組んでいるんだというように人々の表情が見えるような形になると、なぜそこに行くのかということが明確になり、魅力あるプレゼンができるのではないかと思います。

2点目はスポーツツーリズムの部分で、我々市町村からすれば、是非もっとも一緒にさせていただきたいと考えてところです。イベントのその日だけたくさん人が来るということでは、経済効果については非常に限定的かと思います。多少は買っていかれるのかとは思いますが、継続的に行われるような活動についても一緒に取り組めればと思っています。

奈良マラソンでも、毎日走れるものではないですから、例えばしまなみ海道などは典型的な例ですが、サイクリングやノルディックウォークなどでは奈良の歴史文化

も含めて日常的に来ておられる方もたくさんいるわけで、今、県でも京奈和自転車の整備を進めておられるということですが、イベントの時だけでなく普段から使える場所、施設だったり、ここはこのように活用できますよと、ターゲットに応じて発信できないかな、またその施設の部分だけでなく、身一つできても、こちらで借りたものがあちらで返せますなど、運用面でも一緒にできないかと思います。そうすると県が持っているリソース、市町村が持っているリソースを分けて考えるよりも、市が持っているここで借りたものを隣の町で返せたり、県が持っている借りたものを別の場所で返せるなど、お互いの情報発信を網の目のようにしていければと思います。ぜひ、スポーツツーリズムの部分でイベント以外の日常的に来ていただける部分を、施設と運用面の両方で連携を深めさせていただきたいと思います。

3点目は、マイナー競技と言いますと失礼かもしれませんが、まだまだ、この競技に関しては全国から奈良県に来ていただけるという要素がたくさんあるのではないかと思います。水球なら北陸で熱心にされていて今やポセイドンジャパンといえば自然と北陸に目が向いていくのですが、例えばビーチボールバレーでは天理市と桜井市が新潟と並んで全国大会をしていただいて、1000人規模で全国大会にきていただいています。障がい者スポーツのデフバレーの全国大会もしていただいています。大都市の大きな施設を持っているところは、脚光を浴びる競技を持って行きますが、奈良県が狙っていけるニッチの競技というのはいっぱいあるのではないかと、すでにそういう流れはできている部分はあると認識しているので、県と市町村で整理をして、「これ」をやっている人には全国から奈良に特別な思い入れを持ってきていただけるというような流れを強めていければと思います。

最後に、スポーツアカデミーについてですが、素晴らしい施設が県営プール周辺の場所へできてくるのだと思いますが、毎日あるいは定期的にそこへ通える方というのは限りが出てきます。ですからそこで開発されたメソッドがそれぞれの地域の中でしっかり活かされていくような形で、フランチャイズではないですが、そこで生まれてくる手法などが奈良県全域の地域におけるスポーツの底上げとなるような流れでしていただけると非常に、その局地だけやそこに通える人だけではなく、本来の裾野拡大になるのではないかと考えています。

〔佐久間会長〕

有り難うございます。非常に貴重なご意見をいただいたと思います。発掘というのは、選手だけではなくこうした特性などの情報についてもソーシャルから発信してもらおうというのが重要になります。では、最後に辻本委員、いかがでしょうか。

〔辻本委員〕

奈良テレビの辻本です。

トレーニングセンターについて、国立の施設があったが奈良に関西版ができると思っていたのですが、スポーツアカデミーと名称が変わって、そういう方向なのだと



いう感想です。スポーツ推進に当たって、皆がスポーツするという観点はその通りで、スポーツで盛り上がる部分ではスポーツをされる方は熱心でおられますが、メディアの立場から申しますと、どう観戦するのかという部分が大事だと考えます。先般、世界卓球を相当流しました。特に女子の卓球は視聴率がそれなりにとれました。見てもらえるために何か考えなきゃいけないと思っています。そういう観点がスポーツ推進審議会にあるのかないのかわかりませんが、そんな思いがしました。奈良テレビは、高校野球、少年サッカー、高校サッカー、ラグビー、BJリーグもお金が集まればやってますし、奈良マラソンや市町村対抗こども駅伝もしていますが、マイナー競技にスポットをあてたネクストという番組を月1回、新しい選手やスポーツの発掘をしていますが、なかなか帯が続かないので、ショッピングで儲けた分をつぎ込んでいますが、結局見てもらわないといかん、見てもらったら感動を呼んで、そのスポーツをしてみようかとか、こういう風になりたいとか、底上げのためには見せる部分が大事だと思っています。そういう観点での事業の振り方を検討いただけたら有り難いと思います。

〔佐久間会長〕

有り難うございます。マスコミの持っている力というのは大きいと思いますので是非お願いしたいなと思います。

〔阪口委員〕

本県は奈良マラソンをされていて視察にも行っていますが、非常にいろいろな方が参加されています。基本的には、県の主要事業報告には賛成でございます。

先ほど並河市長からもございましたが、地域の活性化ということで県民や県外からも参加をしたいというニーズのある競技が他にもあるのではないかと思います。私は、最近よく卓球をしています。生駒の体育館でいろいろなサークルの人が卓球をされていて、卓球人口が非常に増えてきている気がします。それからサイクリング等、そのあたりの人数を調べていただいて県の政策に反映していただきたいと思っています。

子どもの運動で、市町村対抗子ども駅伝大会がありますが、これの目的については、私は子どもが楽しく走るといいと思いますので、順位にこだわる必要はないのではないかと思います。私は中学校教諭を38年して、陸上競技の顧問も長くしました。子どもがどの種目に向くかというのは小さい段階ではわからないだろう、また、硬い道路を子どもに走らせると膝や関節に負担がかかりますので、スポーツ傷害の原因にもなります。楽しく走って、中学高校生になったときにラグビーやテニスなどいろいろなスポーツが有りますので、最初から熱心に取り組んで長距離ランナーだと決めつけない方がいいという意見です。

〔佐久間会長〕

有り難うございました。それではこれで平成27年度の主要事業報告についての審議を終わらせていただきます。続きまして平成28年度、奈良県スポーツ推進計画に基づく事業の概要案について事務局からご説明いただきます。

[事務局]

資料に基づき説明

[佐久間会長]

それでは資料9、総合型地域スポーツクラブについてですが、ご専門の松永委員からお願いできますでしょうか。

[松永委員]

昨年度は所用で欠席いたしました。スポーツマネジメントを専門としております松永です。

27年度、28年度の事業についてご説明いただきましたが、非常にわかりやすい資料で感動しております。おそらく、全てを記載しきれていないのだと思いますが、総合型地域スポーツクラブについては、関係されている方々は非常に熱心にご尽力を頂いてますが、まだまだ地域の方々に総合型地域スポーツクラブが認知されていないのが現状です。名称もわかりやすそうでもわかりにくいですし、地域にあるのに関わらず全体的に認知度が低いということをどのように解消していくのかという点は、資料の内容の前段階としてご検討いただきたい部分です。

また、教育委員会を通じた連携については、教育現場の先生方の理解がまだまだ低い現状です。これらを含めて、関わっている方は皆さんよくわかっておられるのですが、そこからちょっと離れると、まだまだ認識、理解不足という所も解消しなければなりません。教育委員会、学校関係も、モデル校になったり中学校区で総合型地域スポーツクラブが展開されている学校の教員はよくご存じですが、それ以外の地域では、総合型地域スポーツクラブって何なのか？という先生が多く存在しています。保健体育の教科書にも書かれているのですが、大学生に聞くと高校までの段階であまり認識されていないという現状があります。啓発活動、認知度アップが重要で、総合型地域スポーツクラブの概要や、なぜ今、クラブが必要とされているのかを知らないのかを知っていただき、名称だけで関係ないと思われる方がいるようなことを解消していただきたいと思います。

そして、皆さんご存じの通りスポーツ庁が昨年10月に発足しまして、課長クラスを見ても経産省と厚労省からこられています。全国に目を向けると先進的な総合型地域スポーツクラブでは、異業種間の連携強化がますますなされているところです。奈良県でもイオンモールさんとタッグを組まれていまして、かなり積極的に新しいことをされている、先進県の1つであると感じます。

今後は、もう一段階進んでいただいて、例えば公民館事業や包括ケアセンターなど

とも連携しながら、新たなチャレンジを期待したいです。例えば独居老人など買い物に困っておられる方を対象に、公民館からイオンモールまで一緒にバスで来て、健康づくりのイベントに参加して、その後買い物時間をセッティングして、また公民館までバスに乗って一緒に帰るといったような、地域で困っているところを、タッグを組んでフォローしていこうというような取り組みが進み出しています。つまり、条件はありますが、totoバスや市町村のバスの利用、市内循環バスを組み込むなど、業種や部署を越えて地域住民が困っている部分はどこなんだという視点での取り組みなどが例として挙げられます。まさにくらし創造部の名は、このような取り組みを展開しやすい組織になっているのではないかと思います。総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザー、クラブマネージャー、そして担当部署だけではなかなか困難な話ですし、28年度に急には無理かと思いますが、学校や部署を越えたさらに進んだ取り組みを是非サポートしていただきたいと思います。

それから、資料の全体の中でスポーツボランティアの視点が少ないという感じがします。全体にまたがってですが、奈良マラソンでは4383人と記載がありますが、ボランティアがマラソンや東京オリンピック・パラリンピックを通じて非常に身近に感じられるようになってきました。資格や技術、特に経験がなくてもできることがあるということを皆さんが認識されて、スポーツボランティア、例えばマラソンなら給水や受付など、一步を踏み出しやすい環境になってきています。

ただ、その方々の参加スタイルには2種類ありまして、団体ボランティアはどちらかという言葉は悪いですが動員という形で、元々スポーツをやっておられて、地域のためスポーツのために頑張る力になるかと思われる方々で、そういう方はずっとスポーツに関わっていただいています。しかし、今注目すべきはボランティア未経験者が身近なところにチャンスがあってやってみるといった形の個人ボランティアで、個人申し込みをされてボランティアデビューをされる様な方々は、京都マラソンで調査をしたところ京都市内の個人ボランティア参加者の半分以上の方がマラソンでスポーツボランティアデビューをされていることがわかりました。

問題はその後なのです。せっかくデビューをしたのですがその後のつなががないので、気持ちも昂ぶって頑張ろうと思うのですが、次はどこでどうすればいいかわからず、また1年後のイベントになってしまうこととなります。こうした状況をとらえて、地域スポーツクラブや様々な地域のスポーツ組織で活躍して頂くスポーツボランティアを育てていく仕組みを、事業全体にまたがって検討することが重要です。同時に総合型地域スポーツクラブなどの定期的な活動につなげていくことが、これからの課題ではないかと感じました。

〔佐久間会長〕

確かに、総合型地域スポーツクラブはいろいろな要素を組み合わせていかないとなかなか発展していかないと思います。また、スポーツボランティアにつきましては、私も社会人のための施設開放等に協力しましたが、社会人ですので夜間しか使えな

いものですから、大学側にも夜間の使用について理解を求め、積極的に解放して協力したことがあります。スポーツクラブを展開していくのには法的な面も関係してくると思いますが井上委員いかがでしょうか。

[井上委員]

井上です。総合型地域スポーツクラブについては、直接的に関わっておりませんが、地域で世代を越えて、誰もがいつでも楽しめるスポーツ活動を積極的に展開していただいていると認識しています。

その中で、情報の問題という、例えば私も奈良市に住んでいますが 何となくそのことに関する情報があまり見えないというか、きちんと見てないのかもしれませんが、今の情報社会でのツールをうまく活かしながら他の地域の方にも見えるし、SNSから見なくても市民にどのように見えるかというところを充実させると、もしかしたらそこを変えることで大きくつながりがかわってくるきっかけがあるのではないかと思います。

先般、下市町へスポーツ指導員として行きましたが、公的なところがかなりバックアップして情報を出すのですが、もう一方で、高齢化が進んでいるので、いくらそういう事業があったとしても移動手段がなく、まさしく人が必要で、誰かが車で送り迎えをするなどケアのできる環境を作らなければならない。良い事業をして、担当の方もしっかり取り組んでいただいていますので、バックアップ体制がある中で今度は実質的な細かい対応が求められるのかなと思います。

[佐久間会長]

有り難うございます。他にいかがでしょうか。

[村上課長]

先ほどからご意見をいただいております、どのようにして広げていくのかという点についてです。昨日の総合型地域スポーツクラブ推進協議会でのご意見ですが、始めるに当たって中心となる方が、元々は市町村教育委員会がやってきたことを押しつけられているのかと思いながらも一生懸命にやっていただいて、最初はそれで進めてきたが、だんだん、言われないと出てこない方が現れ、市町村が手を離してしまふと中身が充実しないということでした。

先ほどのご意見はまさにその通りで、やっている人は知っているが周りの者はわかっていないということがあり、それを何とかするためにイオンでの取り組みは、不特定多数の若いお子様連れの方からご高齢の方まで様々なかなり多くの方が行き交う場所で、何もなければただの人混みになるような場所を借りてしています。

実際には、子どもたちがダンスをし、その中に飛び入りで参加者を引っ張ってきて活動を紹介するということでしたが、不特定多数の人に対してきっかけを作るのに、商業施設は非常に有効だったと感じています。

もう一つ、27年度の取り組みとして、特定健診や保健指導の際には多くのピラを配らせていただきました。健康の分野とは結びつけているのですが、もう一步踏み込んで地域包括ケアや地域づくりとの連携は次のステップとして考えていく必要があると思います。これらを進めるに当たっては、各クラブの土台がいかにかかりするかということ、数もそうですが質の向上がこれから求められることで、それらを進めていきたいと考えています。

〔佐久間会長〕

有り難うございました。それでは、キャンプ地招致、スポーツアカデミーについてご意見等いただけますでしょうか。

〔松下委員〕

キャンプ地招致に関しましては、当然、子どもたちの教育の面、経済効果については明らかで、各地域、各市町村、各都道府県で積極的に招致活動を始めています。我々の抱えている契約チームからもプレッシャーを感じながらいるのですが、現実には我々もグリップ感がない状況です。

例えば千葉県、神奈川県あたりは積極的にトップ営業をかけられていますし、例えばマラソンにおいても私の本社がある神戸マラソンに関しましては、外国人ランナーの数が増えないことに憤り、いらだちを感じています。全般的に言えるのは来るのを待っていても来ない。やはり出て行って、活動して引っ張り込まないといけないというのが現状であります。例えば東京マラソンに関しましては海外ランナーは15%、安全管理上限界であるということで15%に限っていますが、規制しなければもっと増えます。さらに、ニューヨークシティマラソンでは海外ランナーは約4割、ニューヨーク州以外のランナーは3割、合計7割がニューヨーク以外のランナーです。正直申しましてここだけの話ですが、ともにエキスポの中で売店活動をさせていただきまして、東京が今年は1億5000万円くらい、ニューヨークが昨年度実績で4億を越える売り上げがありました。明らかに海外から来られるランナーの数の違いが売り上げの違いであるということが言えます。実際に、東京マラソンにおいても、海外ランナーの売り上げの一人あたりの単価が日本人の3倍という実態です。スポーツにおきまして海外の方の参加が大きなテーマになっています。同時に、県民の方のスポーツの振興という意味において、海外ランナーが増えることによって県民の方が走られないのでは何のためのスポーツ大会かということにもなりますので、当然バランスはとっていく必要があります。

それから、アカデミーについてですが、これから奈良メソッドというのを作っていくにあたって、「こんなものか」ということになってしまうと、中途半端で価値の低いものになってしまうのではないかと、鋭角に話を持って行って、世界一とまで言わずとも少なくともアジアでナンバーワンだと言えるような鋭角に仕上げる必要があるのではないかと思います。種目に関しましては、陸上競技、水泳というのはスポ

一つの基本の運動であるので、これをベースにメソッドを考えていくことは非常に理にかなっていると思います。一方で、支出が増えて収入が上がらないという構造になると思いますので、収入を上げられるような種目でアカデミーを運営することが必要だと考えます。楽しみにできる、鋭角で奈良メソッドを明確に語れる内容にすると価値のあるものになると思います。

[佐久間会長]

有り難うございました。他の委員の方いかがでしょうか。

[並河委員]

先ほどは少し先走った発言になりまして失礼しました。キャンプ地招致に関しまして、オール奈良で取り組むことが重要かと思えます。市町村で取り合うという視点は全くございませんし、スポーツそのものプラス病院体制であったり、宿泊であったり、エクスカッションであったり、食事の提供というようなことを考えると、一自治体だけで提供できるようなことではございませんし、そういうものをパッケージでどれだけ出していけるのかと思えます。

また、レガシーと言うことも東京オリンピックでも随分言われていますが、特に競技本体であればそれに向けたハード整備がありますが、キャンプ地ではそれだけのためになかなかそうはいきません。ですが、誘致をするに当たっては一自治体レベルの中でも、どれだけ人員を使ってどれだけ予算を使うのかは必ず議論になってくるし、我々も踏み出すに当たってどうするかは正直迷いもあります。

サッカーワールドカップの時も自治体によっては精神的に追い詰められる職員さんまで出てきたのに、その瞬間お祭りに参加したという以上でも以下でもなくて、今現在には何も引き継がれていないというケースもたくさんありますので、そうならないようにするにはどうすれば良いかと考えますと、宿泊であったり、エクスカッションであったり、食事の提供やスポーツへの関心等の部分で、世界レベルの大会が2年連続日本に来るというなかなかない機会だと思えますので、それに協力することを通じて底上げをしていく機会になったんだということを、県も市町村もしっかり打ち出していくべきだと思えます。

東京オリンピック、ラグビーワールドカップは華やかだから参加しておかなければならないということではなく、それが次につながっていく大きな一歩になるのだということを、県民や市町村の皆さんに理解をしていただくことが大事だと思っておりますので、そのためのプレゼンを是非一緒に考えていきたいと思っています。

[根木委員]

スポーツアカデミーとかキャンプ地の話ではありませんが、総体的な話をさせていただきます。

私はスポーツ庁のスポーツ審議会委員をさせていただいています。まだ、2回しか

開催されていないのですが、スポーツ基本計画ができて5年となる来年度には見直しがあって、また、この4月から障害者の差別解消法が施行されます。これはスポーツだけでなく全てのことに關してですが大変重要なことです。一番最初にこの奈良県スポーツ推進計画を作るときに「誰でも」という言葉に、「誰ですかね」とお話をさせていただいたのですが、それは子どもさんから高齢者から障がい者までですよと確認させていただいたのですが、そういう視点をもっともしっかり見えないとだめで、まだまだ障がい者の方々の視点というのは特別に持たないといけないことなので、本当に素晴らしい新たな取り組みを奈良県が始めていることはありますが、全体的に意識をもってやるには、さらに工夫がいると思います。

オリンピック・パラリンピックというとんでもないパワーのあるイベントが開催される、ワールドカップもワールドマスターズもそうです。でも、大きいイベント、お祭りにすぎないのです。並河委員からもありましたが、レガシーが重要で、この時期だからこそ一気にできることもあるので、スポーツをすることの重要性、まずはそこからですが、スポーツってそもそも何なのかということを広めていかないと、スポーツに興味のない人にとっては、スポーツの力やスポーツの可能性などと言われてもピンとこないのです。このことはスポーツ審議会でも一番議論されていることで、そこがわかっていないと、それを広めないとい皆で参加することにはなりません。

支える、応援する、また、スポーツで稼ぐということもあります。これまではスポーツで稼ぐ、儲けるなんてことを言うとな何を考ててるのかという時代もありましたが、全く今はそんなことはなく、いかにスポーツでお金が回っていくか、アカデミーもそうですが、そういう部分をもっと考えていくべきだと思います。

また、教育の部分も凄く大切です。ロンドンでの取り組みで皆さんもご存じかもしれませんが、ゲットセットプログラムというのがロンドンオリンピック・パラリンピックの際にイギリスの中で主に、小中高校が教育プログラムの一環として実施されました。このシステムは教育以外にも使えるので、奈良県ならどのように活用していくのかという工夫ができます。日本でもオリンピック・パラリンピック教育が言われ出して、学習指導要領では2019年から開始されることになっています。東京では去年から、全小中学校で週1回、年間で35時間、オリンピックパラリンピックのことを勉強しています。最初は指定校60校から始まり全ての学校で取り組むことになっていますが、それをどう勉強すればいいのか、どこに情報があるのかわからないんですね。

奈良県でオリンピックのことを勉強しようとなった場合、奈良県の中で勉強できるところがあるのかわからないと困ります。ゲットセットプログラムでは、サイトはテーマごとに情報がまとめられており、「パラリンピックの種目」とか「競技のルール」等を調べられることになっています。それを学校の体育の授業でどうプログラムできるか、社会の授業でどう活用するかというと、ルール学習や歴史学習などとして学習します。そして学んだことをゲットセットのサイトへ投稿すると、凄く頑

張っている学校にはポイントがついていて、サプライズで、ある日突然オリンピック、パラリンピアンが学校に来てイベントをすとか、イギリス内でのイベントに招待券が優先的に送られてくる等があります。

このプログラムはロンドンオリンピックパラリンピックが終わってから今も続いていて、このプログラムに参加している学校はどんどん増えていて、プログラムもどんどん充実しているのです。

このような方法を参考にして、奈良県のスポーツ全体の情報発信の面を考えてみると、現在のスポーツ振興課のサイトも頻繁にいろいろなイベントや事業の様子などが更新されていて素晴らしいと思いますが、よりバージョンが上がっていき、私たちが議論しているようなこともサイトを見に行くとは提供されるものがある、例えば子育てしていて子どもにスポーツさせたいと思って検索した人がスムーズにその情報にたどり着ける、奈良県ホームページのそのサイトにアクセスするといろんなことに繋がっていけるということになればいいなと思います。

〔佐久間会長〕

有り難うございました。

スポーツだけではなく、仕組みを工夫することで、教育問題などいろいろな分野で、つながりがもてるというお話をいただきましたけれど、それにはそのための情報発信が必要ですので、これからもご検討いただけますようお願いしたいと思います。時間が参りましたが、是非、最後にこれだけはと仰る方がいらっしゃいましたらお願いします。

〔松永委員〕

今のお話にも関連してきますが、アカデミーのことで、紙面の関係もあるのかと思いますが、医科学トレーニングの記載が多いですが、スポーツマンシップや教育の面なども、是非重点的に取り上げていただきたいと思います。

また、ワールドカップ、オリンピックパラリンピックに関連して非常にマイナスの話で申し訳ないのですが、世界陸上のアメリカチームの受け入れに関わったときに、想像以上に、テロ対策で警察からの要請が厳しく、おそらくこのワールドカップからワールドマスターズまでのテロ対策に関しては厳しい要件がついてくると思います。そのあたりも早めに県の方で情報収集して市町村をサポートしていただかないと、現場の担当者の方が追い込まれるのは目に見えていますので、招致はもちろんプラスのことがたくさんあるのですが、そうした支援体制の構築もよろしく願います。

〔井上委員〕

昨年も申し上げたかと思いますが、トレーニングセンターの名称をアカデミーに変えた意味は非常に大事だなと思って、是非いい方向に持って行っていただきたいと



思います。奈良メソッドを研究して選手育成につなげるということですが、トレーニングによって強い選手が生まれましたという話ではなくて、本当に応援のできる人が育つかどうかというのが非常に大切なことだと思います。

私もテニスをしておりまして、構想検討委員の福井烈氏はチームメイトでよく知っています。錦織君はアメリカで育っていますが、スタートは島根で、彼の生まれた島根はテニスが非常に熱心です。私の知人が今、日本テニス協会のジュニア委員長でそこに関わっています。非常にいい指導をしており、育てている選手は競技力もそうですけれど、皆さんから応援されるプレイヤーとして発信力を持ったときに大きな力を持ちます。そのようなことを大事にしたアカデミーにさせていただけると有り難いと思います。

[佐久間会長]

有り難うございました。競技力の向上だけではなく、ある意味で人間として、選手としての人間力の育成につながるようなアカデミーであってほしいなと思います。それでは事務局へお返しいたします。

[中部長]

長時間にわたりまして様々なご意見をいただきましたこと大変有り難うございます。最後にご質問いただいたスポーツアカデミーにつきましては、松下委員からも、鋭角に、支出収入という角度からもしっかり見ていくようにとご意見いただきました。我々も税金で仕事をさせていただいておりますので、必要な経費を何らかの形で自ら生み出すことはできないか、そういった意味ではスキームなどにおいて民間の力を活用した取り組みなどの視点を持ちながら進めさせていただきます。

もう一点、スポーツアカデミーに改称したという点ですが、幼児期からの発達段階に応じてというのは、まさに、幼児期は規範意識ですとか人間力が培われる時期であり、そういう部分をスポーツ、運動を通じて高めていくという視点は当然持っております。その意味でも研究を重ね、体力の向上、規範意識の高まり等へもはっきりつないでいきたい。それが基本的に奈良メソッドのめざすところであるということです。この中に明記はしておりませんが、そういう視点で取り組もうとしております。

また、並河委員にご意見いただきましたオリンピックレガシーにつきましては、県だけで一過性のものに終わるということは決して考えておりません。これが一つのきっかけになって県民底上げのスポーツに対する関心を高めていく、スポーツに取り組んでいくという県民意識、いわゆるメンタリティにしっかり訴えていきたいと思っています。

根本委員が仰った、パラリンピックにつきましても、本県では今年4月1日から「障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が施行されます。県庁内外、市町村、全県下でその取り組みをしていくことになっていきますので、ご意見

いただいたことは県を挙げて取り組むという姿勢でございますので念のために申し添えておきます。

本日いただきましたご意見につきまして、しっかりと吟味をさせていただき28年度の取り組みに反映させていただきたいと思っております。

本日は限られた時間で、皆様方にお話しいただける機会は十分ではなかったかと思いますが、皆様からいただいた気持ちを我々も受け止めさせていただいて、しっかり反映させていただきたいと思っております。本日は有り難うございました。

## 7 閉会

[司会]


それでは、これもちまして平成27年度奈良県スポーツ推進審議会定例会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

平成 28 年 4 月 28 日

議事録署名人

井上 洋一 

議事録署名人

辻本 俊秀 